

てら だに よう すい 寺谷用水



1590年 旧取入口跡

寺谷用水土地改良区の
HPに掲載されている
「マンガでわかる寺谷用水」に
登場するキャラクターです



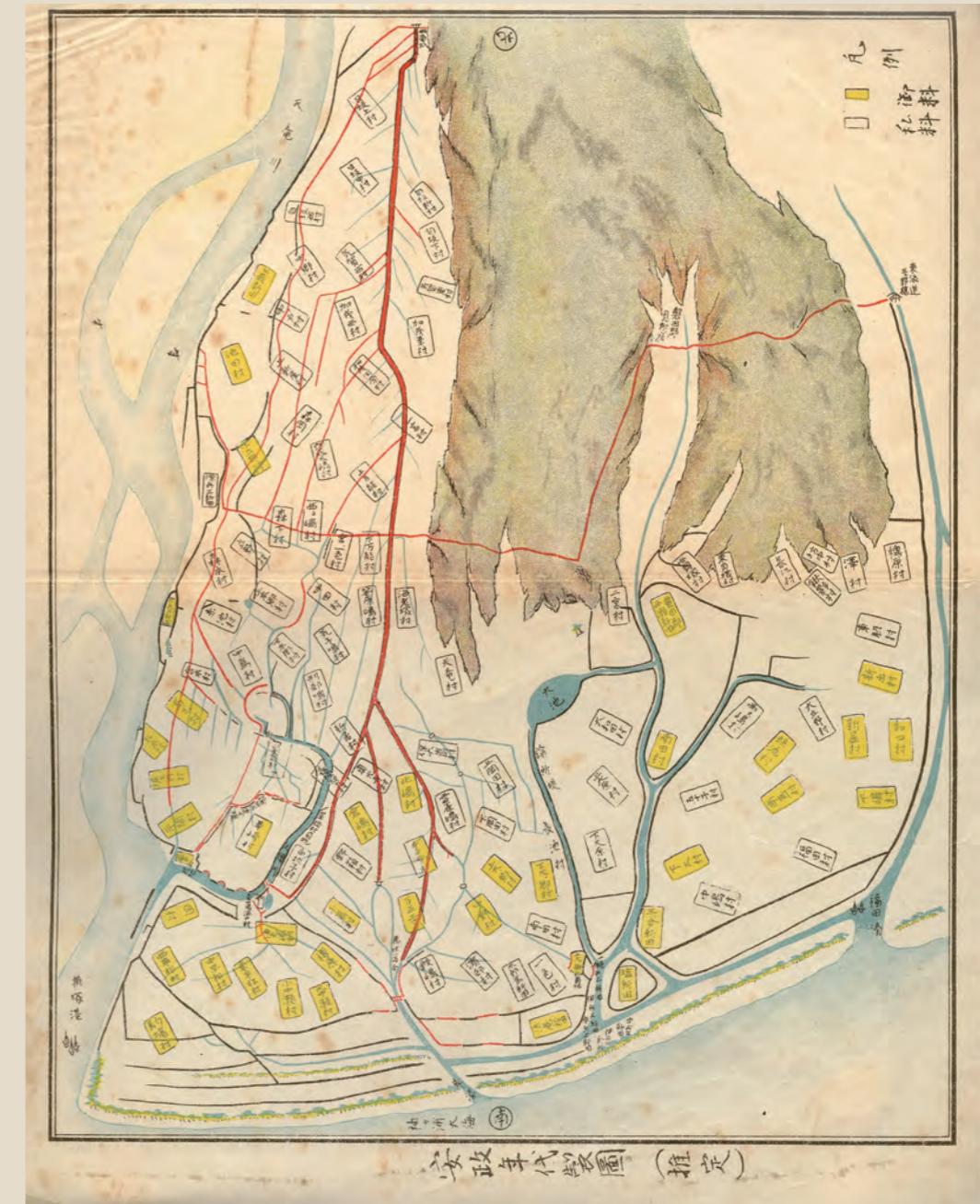
寺谷用水の
てらすう

発行



寺谷用水土地改良区

〒438-0804 静岡県磐田市加茂1番地
TEL 0538-32-4655 FAX 0538-36-0609
URL <http://www.teradani.com/>
E-mail teradani@axel.ocn.ne.jp
法人番号:7700150046039



寺谷用水の歩み

一九四四（昭和一九）	七月	磐田用水通水式（浜松市天竜区二俣町）
一九四〇（昭和一五）	四月	磐田用水速進同盟会解散・磐田用水連合設立
一九三三（昭和八）	五月	磐田用水水利権許可（五百立方尺）
一九二七（昭和二）	八月	磐田用水期成同盟会創立（昭和八年に磐田用水速進同盟会に改称）
一九二五（大正一四）	五月	寺谷用水誌発刊
一九〇九（明治四二）	三月	寺谷用水組合設立
一九〇六（明治三九）	三月	寺谷用水引用水量に対する県の意見書（毎秒二〇〇立方尺）
一八九一（明治二四）	三月	平野重定公三〇〇年祭
一八八四（明治一七）	三月	神田取水口完成
一八三一（天保二）	三月	犬塚祐一郎による「社山疏水計画」立案
一六二四（寛永元）	三月	平野重定公没す 久松山大円寺に葬る ①
一五九〇（天正一八）	中	中泉代官所設置
一五八八（天正一六）	中	寺谷（浜部村まで）の大井堀（用水路）12km完成 寺谷村地先に大堀樋（取入口）を建設
平野重定公	中	寺谷（おおいぼり）

一九六九（昭和四四）	五月	土地改良区 銅章受章
一九六八（昭和四三）	四月	県営天竜川下流土地改良事業新規採択
一九六七（昭和四二）	三月	国営天竜川下流用水事業計画決定
一九五九（昭和三四）	七月	天竜川下流用水事業推進協力会発足
一九五八（昭和三三）	六月	天竜川水利調整協議会発足
一九六六（昭和四二）	三月	磐田用水幹線改良事業完了
一九六四（昭和三九）	四月	国営天竜川下流用水事業採択
一九六三（昭和三八）	八月	天竜川下流用水事業促進期成同盟会発足
一九五九（昭和三四）	一月	天竜川河状調査委員会発足
一九五八（昭和三三）	五月	秋葉ダム完成
佐久間ダム完成		
平野重定公三五〇年祭		
水窪町において水源涵養林育成事業を始める		
磐田用水東部土地改良区連合設立		
天竜東三河特定地域総合開発計画閣議決定		
磐田市二之宮地区および保村大原地区編入		
農地法制定		
寺谷用水土地改良区設立		
寺谷用水組合解散		
磐田用水東部土地改良区設立		
土地改良法制定		
一九五一（昭和二六）	十月	
一九五〇（昭和二五）	十一月	
一九四九（昭和二四）	十二月	
一九五二（昭和二七）	七月	
一九五六（昭和三二）	十月	
一九五四（昭和二九）	七月	
一九五二（昭和二七）	六月	
一九五二（昭和二七）	十二月	

新寺谷用水誌発刊	三月	一九八六（昭和六一）
国営事業所閉所式・記念碑建立	十一月	一九八五（昭和六〇）
国営造成土地改良財産管理委託協定書	十月	一九八四（昭和五九）
国営天竜川下流農業水利事業完工式	三月	一九八三（昭和五八）
磐田用水土地改良区連合解散（連合誌「水と人」発刊）	四月	一九八二（昭和五七）
天竜川下流農業水利事業水利使用許可	一月	一九八〇（昭和五五）
船明ダム共有財産の管理に関する協定書	七月	一九七九（昭和五四）
船明ダム通水式・竹山祐太郎翁胸像除幕式（③）	四月	一九七八（昭和五三）
天竜川下流用水共有財産の管理に関する協定書	十一月	一九七八（昭和五三）
掛塚土地改良区合併	三月	一九七七（昭和四六）
土地改良区 金章受章	七月	一九七四（昭和四九）
七夕豪雨による災害発生	五月	一九七二（昭和四七）
土地改良区 銀章受章	十一月	一九七一（昭和四六）
県営寺谷用排水幹線改良事業完了	三月	
船明ダム着工		

平野重定公四〇〇年祭	十月	I C I D 世界かんがい施設遺産登録
水源涵養林表彰（内閣総理大臣）	四月	二〇一三（令和四）
県営かんがい排水事業「天竜川下流寺谷地区」完了	五月	二〇一八（平成三〇）
水源涵養林（土地・立木）を取得	六月	二〇一八（平成三〇）
下野部パイプライン地区加入	七月	二〇一五（平成二七）
天竜川下流用水の水利権更新（早期の田植え可能に）	八月	二〇一九（平成二二）
市町村合併（磐田市・豊岡村・豊田町・竜洋町・福田町）	九月	二〇〇五（平成一九）
水源涵養林表彰（国土交通大臣）	十月	二〇〇七（平成一九）
土地改良区 水資源功績者として国土交通大臣表彰受賞	十一月	二〇〇三（平成一五）
寺谷用水土地改良区五十周年記念式典	十二月	二〇〇一（平成一三）
水源涵養林育成事業が全国植樹祭において表彰される	一月	二〇〇〇（平成一二）
パイプライン維持管理協定書締結	二月	一九九九（平成一二）
土地改良区 農林水産大臣表彰受賞	三月	一九九八（平成一〇）
県営かんがい排水事業「寺谷上流地区」採択	四月	一九九六（平成八）
寺谷コントロールセンター落成式	五月	一九九五（平成七）
国営附帯県営天竜川下流農業用水事業完了	六月	一九九八（平成一〇）
静岡県天竜川農業用水建設事務所閉所	七月	一九九四（平成六）
水管路施設およびパイプライン覚書	八月	一九九三（平成五）
天竜川下流用水協議会発足（協力会を改組）	九月	一九九二（平成四）

②供養塔

大円寺の西側に供養塔が建立されています。これは寺谷用水組合管理者(現在の理事長を指す)平野陸則氏の生前の功績を顕彰するため昭和15年に建てられました。

その後、功績のあった大橋亦兵衛・鈴木正一両氏の名を追刻し現在に至ります。

※10月例祭の當日に3名の功績者の供養祭も併せて執り行います。



ひらの
平野
ちかの
陸県

富岡村加茂東出身で富岡村長、県議会議長を歴任。その間大正8年から19年の永きにわたり寺谷用水組合管理者として運営にあたられました。

おおはし またべえ
■大橋 亦兵衛(S23.10月追刻)

井通村小立野出身で井通村長、県議会議員、衆議院議員を歴任。寺谷用水組合と旧社山疏水組合を統合し磐田用水連合を組織するまで期成同盟会長としてその任にあたられました。

すずき しょういち
■ 鈴木 正一(S43.10月追刻)

富岡村中野戸出身で富岡村長、県信連理事、県議会議員を歴任し、その間寺谷用水組合管理者として手腕を振るわれ、磐田用水土地改良区連合初代理事長としてその任にあたらされました。



ひらの
平野
ちかの
陸県

THE PAPERS OF JAMES BUCHAN



井通村小立野出身で井通村長、県議会議員、衆議院議員を歴任。寺谷用水組合と旧社山疏水組合を統合し磐田用水連合を組織するまで期成同盟会長としてその任にあたられました。

10



富岡村中野戸出身で富岡村長、県信連理事、県議会議員を歴任し、その間寺谷用水組合管理者として手腕を振るわれ、磐田用水土地改良区連合初代理事長としてその任にあたられました。



①大円寺

寺谷用水は400年以上前に徳川家康のもと平野重定公が、農民福利の基盤は水利の安定にありとして現在の磐田市寺谷地先に水源を求め、12kmの水路を開さくしたのが起源です。

毎年10月8日、重定公の命日に大円寺において当土地改良区役員、総代、国、県、磐田市の関係者を招いて例祭が執り行われています。



③竹山祐太郎翁 胸像

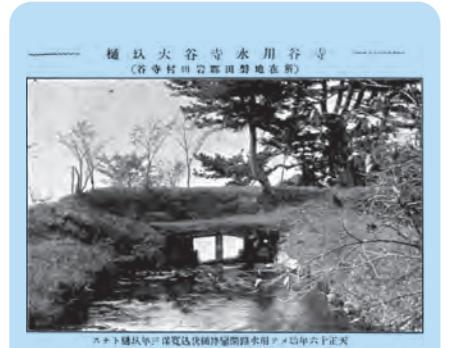
磐南一帯の農民の長年の期待にこたえて建設された船明ダムの左岸記念公園には竹山祐太郎翁の胸像が建設され、通水記念式典当日に胸像除幕式が執り行われました。

翁は地元(磐田市見付)出身の政治家で(建設大臣、後に静岡県知事)ダム建設にあたり全身全霊を傾げ努力されました。

寺谷用水の歴史

過去の取水口

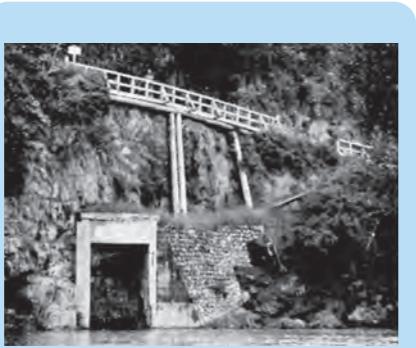
■大堀樋:磐田市寺谷



明治時代 「寺谷用水誌」（1925年）より



■神田取水口



（明治17年～昭和21年）
「寺谷用水誌」（1925年）より



■阿藏取水口



（昭和22年～54年）
「寺谷用水誌」（1925年）より



寺谷用水土地改良区 事務所

寺谷用水組合事務所
(不明～昭和26年)



*大正13年撮影

寺谷用水土地改良区旧事務所
(昭和26年～平成6年)



現在の事務所
(平成6年～現在)



寺谷用水土地改良区の設立

昭和26年10月28日 寺谷用水組合解散式・寺谷用水土地改良区設立式の様子



設立式の様子

壇上は竹山祐太郎氏（元建設大臣、後に静岡県知事）

歴代 理事長



初代 堀内 健一
(昭和26年10月～昭和29年5月)



二代 伊藤 左一
(昭和29年6月～昭和47年3月)



三代 鈴木 一雄
(昭和47年4月～昭和59年3月)



四代 山内 克巳
(昭和59年4月～平成12年3月)



五代 大庭 孝
(平成12年4月～平成13年9月)



六代 池田 藤平
(平成13年9月～令和6年3月)

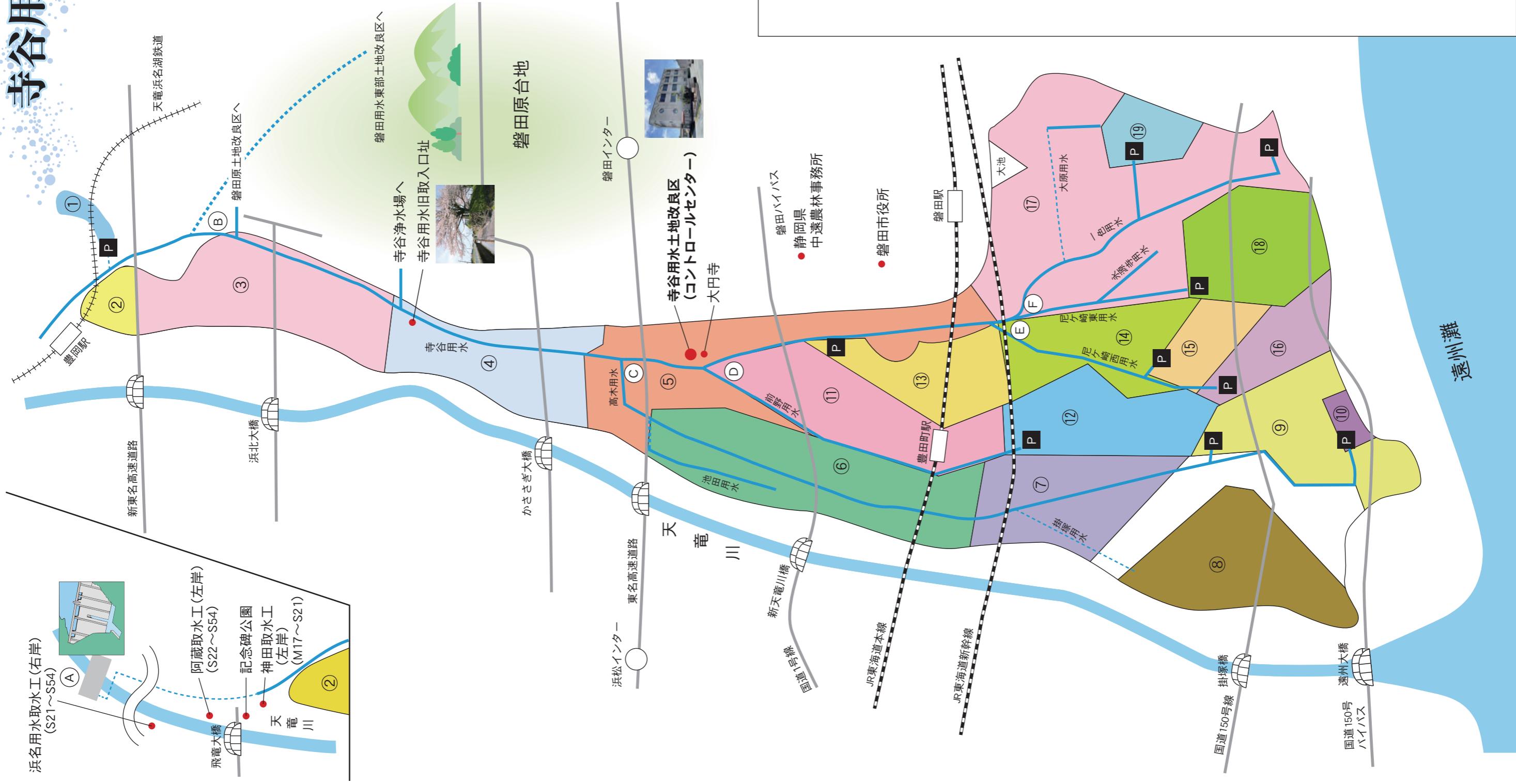


七代 鈴木 望
(令和6年4月～令和6年7月)



八代 伊藤 英明
(令和6年7月～現在)

寺谷用水概要図

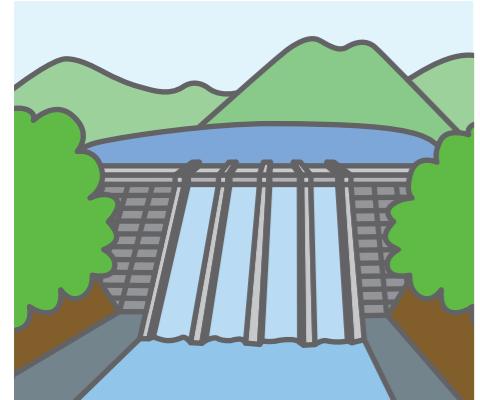


寺谷用水の関連施設とその仕組み

農業用水にはいろいろな施設があります。

それぞれの施設はどのような役割を果たしているのでしょうか?

ダム



ダムは「堰堤（えんてい）」を英訳したもので、治水、利水、治山、砂防などを目的として、川や谷を横断もしくは窪地を包囲するなどして作られる土木構造物です。

寺谷用水の取水口である「船明ダム」は天竜川に作られた長さ220m、高さ24.5mのコンクリートダムで、農業用水のほかに私たちの生活に必要な発電や上水道、そして工業用水にも利用されています。

※堰堤とは…川などの流れをせき止める堤防。日本の河川法では高さ15m以上のものを「ダム」といいます。

A 船明ダム



【目的】かんがい・発電・上水・工水

【総貯水量】 $10,900,000\text{m}^3$

【発電】最大出力32,000kw

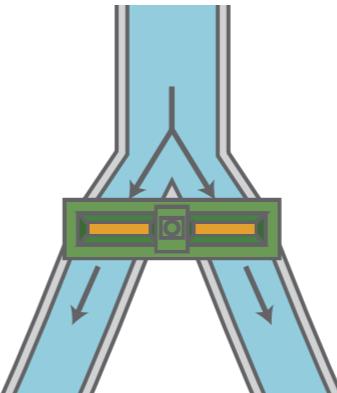
【農業用水】最大 $37.977\text{m}^3/\text{s}$

【上水】最大 $2.503\text{m}^3/\text{s}$

【工水】最大 $0.932\text{m}^3/\text{s}$



分水工



「用水路」はダムから取水した農業用水を水田や畑に運ぶための施設で、地下を流れる部分と地上を流れる部分があります。

「分水工」は文字どおり幹線水路の水を支線水路に分ける施設のことです。水量を公平に分けることができるよう科学的に算出して断面を決めています。また、分水工には水門ゲートが設けられており、ゲートの開閉によって水の量を細かく調節できるため、水をムダなく使うことができます。

主な分水工

④ 神増分水工



寺谷幹線



社山幹線

⑤ 高木分水工



高木幹線

寺谷幹線

⑥ 前野分水工



前野用水



寺谷幹線

⑦ 尼ヶ崎西分水工



尼ヶ崎西用水

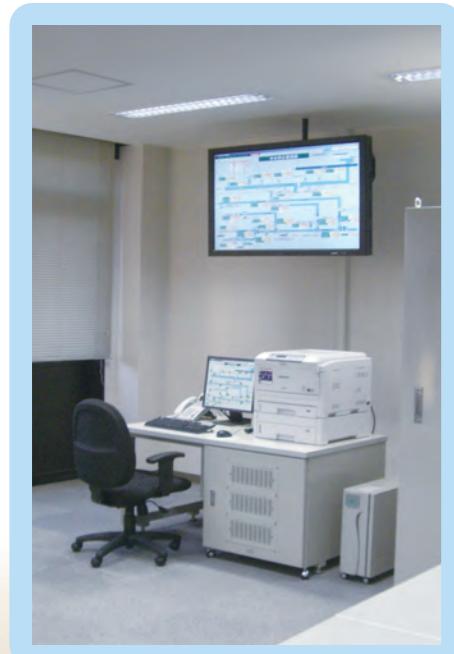
寺谷幹線

水管理システム

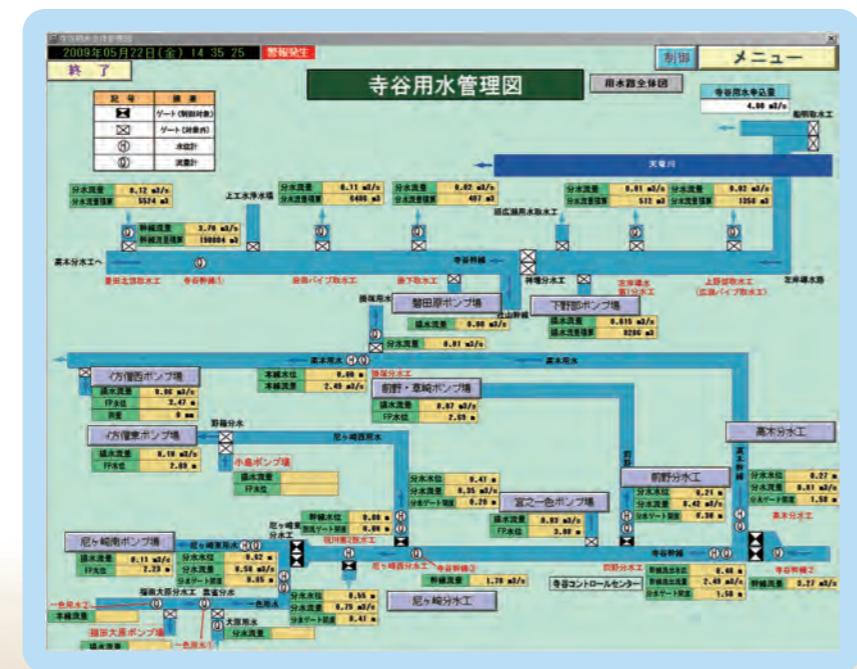


寺谷用水の管理区域は磐田市の南北約20km、東西約6kmの広大な範囲であり、以前は地区ごとの用水量を把握することは、時間もかかり非常に難しいことでした。しかし、技術の進歩により場所が離れている分水工やポンプ場の水量を観測し、その情報を管理者に伝送するシステム「水管理システム」が開発されたことで容易になりました。

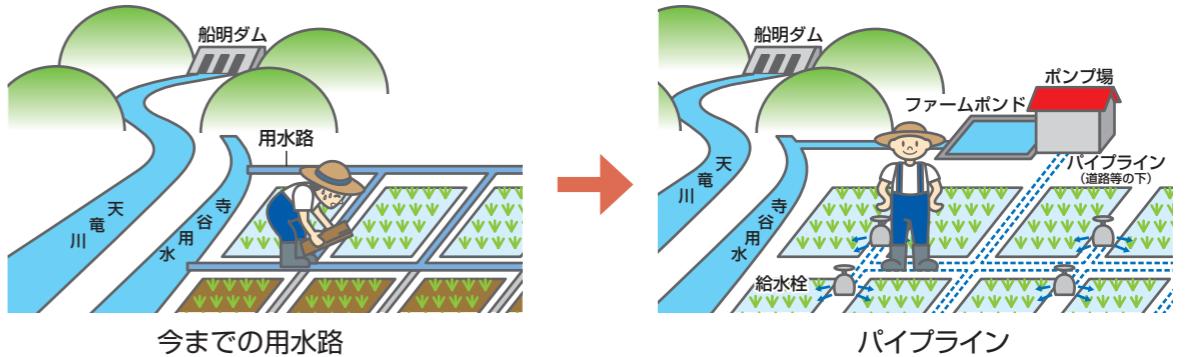
当土地改良区は平成6年度にシステムを導入し、計画的に更新しています。現在21箇所の分水工、ポンプ場の水量が寺谷コントロールセンターで集中管理されています。



水管理システム 操作卓



パイプライン施設 寺谷用水受益の4割はパイプラインによる通水



「パイプライン」は「管の用水路」の意味で、今まで開水路だった用水路を管（パイプ）に切り替えた施設です。

今まで通水時期に合わせて地域ごと一斉に耕作をするしかありませんでしたが、給水栓を捻れば簡単に水が取れるようになり、きめ細かな水の運用ができるようになりました。また無駄な水を流す必要がなくなるため、水の節約にもつながります。



世界かんがい施設遺産

寺谷用水は、2022年10月6日にオーストラリアのアデレードで開催された国際かんがい排水委員会（ICID）国際執行理事会において「世界かんがい施設遺産」に登録されました。



盾



認定証

認定証和訳

天竜川水系に位置する寺谷用水は、画期的な技術を取り入れた革新的なプロジェクトによって食料生産性を向上させ、水田農業の発展と農家の経済状況の改善に貢献したかんがい施設として、ICID世界かんがい施設遺産に登録されました。

世界かんがい施設遺産とは

国際かんがい排水委員会（ICID）は、かんがいの歴史・発展を明らかにし、理解醸成を図るとともに、かんがい施設の適切な保全に資することを目的として、建設から100年以上経過し、かんがい農業の発展に貢献したもの、卓越した技術により建設されたもの等、歴史的・技術的・社会的価値のあるかんがい施設を登録・表彰するために、世界かんがい施設遺産制度を創設しました。

登録により、かんがい施設の持続的な活用・保全方法の蓄積、研究者・一般市民への教育機会の提供、かんがい施設の維持管理に関する意識向上に寄与するとともに、かんがい施設を核とした地域づくりに活用されることが期待されており2022年10月現在17ヵ国142施設（国内47施設）が登録されております。（農水省HPより抜粋）

※かんがいとは…農作物の生育に必要な水を、用水路造成などにより供給すること



現地での表彰式の様子

受賞のポイント

1.歴史的価値について

○寺谷用水は、農業開発を通じた経済成長を目指し、1588年徳川家康の命で始まり、家臣の伊奈忠次が企画し、元代官の平野重定により工事を始めたことです。

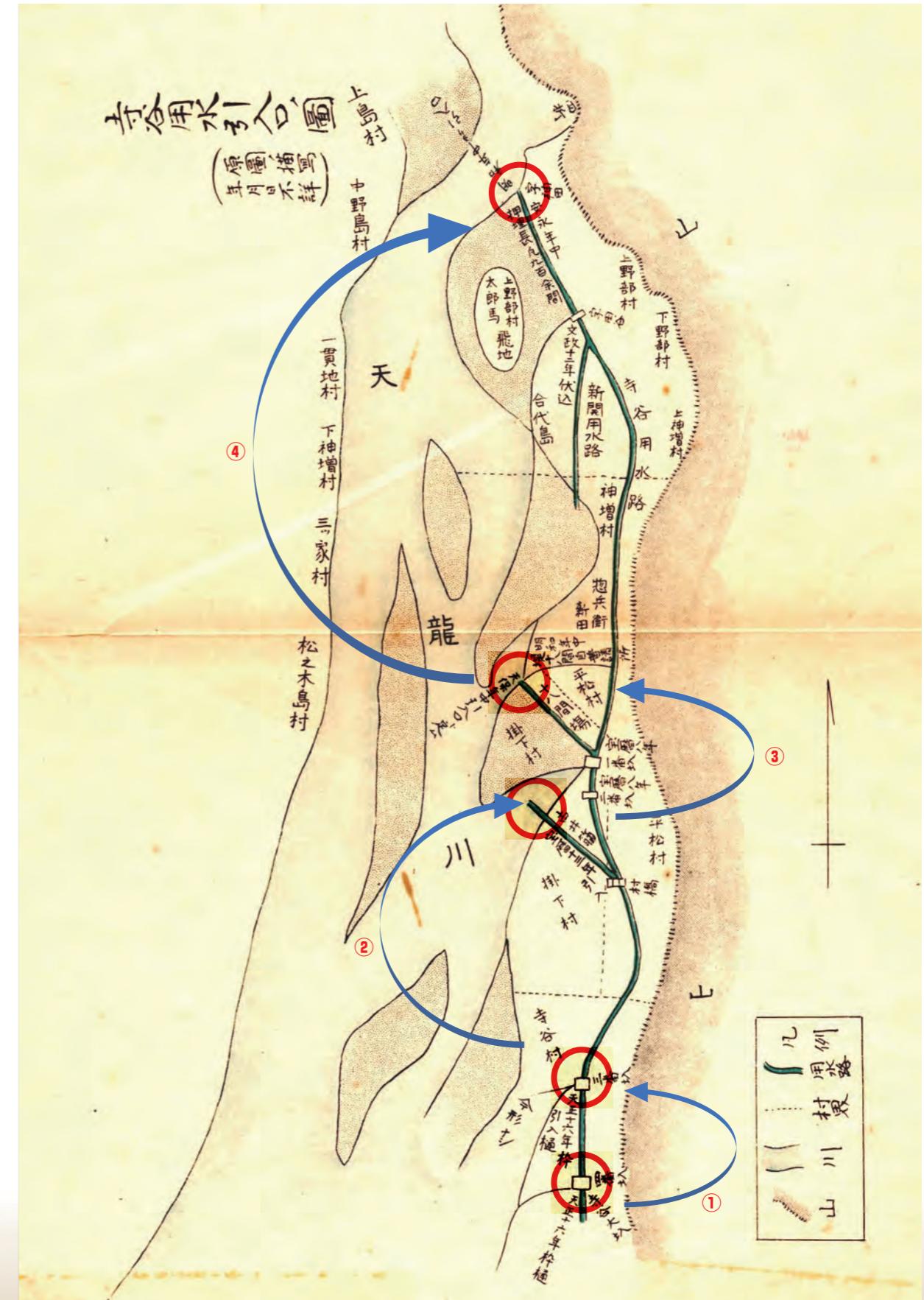
2.技術的価値について

○寺谷用水では堤防（大圍堤）と函渠（大垣樋）を組み合わせる形で取水工が建設、造成されました（関東流または伊奈流といわれた）。堤防（治水）と函渠（利水）を組み合わせた画期的なシステムは高く評価されました。寺谷用水は国内における大型木製取水工建設の先駆けとなったことです。
・天竜川の氾濫原から農地を分離するための堤防とともに、幅4m、長さ12kmの水路を建設しました。1590年に完成し、新たに開田された400haを含めて2,000haの水田を潤しました。

3.社会的価値について

○用水路建設後、平野重定は73ヵ村への円滑な配水と水路の維持管理のため、農家による組合である「井組」を組織したことです。
・「井組」は、農家で構成され自主的かつ民主的に用水を操作・管理し、必要な費用は農家が面積に応じて平等に負担してきました。
・73ヵ村の「井組」は、現在では、寺谷用水土地改良区の傘下の19組合へと受け継がれています。（*P5、6参照）

江戸時代の地図（○印は取入口の移り変わり）



寺谷用水土地改良区の事業や活動

土地改良区の仕事について(維持管理に関することなど)

用水路の管理（水位調整）



各地区へ均等に配水するために定期的に点検を行っています。

写真はネルピックゲートを操作する様子です。

水管理システムの操作



水管理システムで主要分水工の遠隔操作を行う様子です。※基本的には現場で作業します

各種事務処理



賦課金徴収事務や他目的占用事務、農地転用事務など日常業務の様子です。

用水路の管理（ゴミ取り）



用水路内のゴミを取り除いている様子です。各用水組合の役員さんにもご協力いただいています。

用水路の流量の確認



水管理システムでは計測できないポイントで水位を観測する様子です。きめ細かな配水を行うために実施しています。

広報誌「寺谷用水だより」の発行



当土地改良区は毎年7月に「寺谷用水だより」を発行し関係者に配布しています。

写真は職員による編集作業の様子です。

安全対策に関すること

フェンス更新



用水路は流れが速く深いので非常に危険です。用水路には転落防止のためのフェンスを設置していますが、老朽化により古くなったフェンスは通学路付近等を優先して新しいものにしています。

※用水路付近では子供を遊ばせないよう注意しましょう！



ポンプオーバーホール…ポンプ場内のポンプをオーバーホール（分解清掃）している様子



パイプライン地区への通水に支障を来すことのないよう定期的に点検をして経年劣化した部品や故障箇所を見つけると、分解清掃や修理、部品交換などを実施して本来の性能の回復を図っています。

また、ポンプ設備のトラブル発生を未然に防ぐため、耐用年数に応じて計画的にポンプオーバーホールを実施しています。

視察研修に関するこ

当土地改良区の活動について地域の皆様にご理解ご協力いただけるように視察研修会を開催しています。

小学生・中学生・高校生の視察受入れ



磐田市立磐田南小学校 「出前授業」



静岡県立磐田農業高等学校「現地見学会」

若手耕作者視察研修会



「ドローン」について



「GISシステム」について

その他の講習会



シンポジウム「寺谷用水の歴史と今」



磐南文化講座「寺谷用水430年の功績」

施設の修繕に関するこ (磐田市との協働活動)

空気弁分解清掃



用水路小修繕



毎年、当土地改良区と磐田市役所は、地元の農業者を対象に「空気弁の分解清掃」「用水路の小修繕」に関する講習会を共同開催しています。

ビデオを使って補修手順を説明した後、実際に現場で講習を行っています。

記念碑公園に関するこ

昭和54年に船明ダムが完成するまで使用された阿蔵取水口（浜松市天竜区）の管理所跡地が記念公園となっておりましたが、平成13年に飛竜大橋が開通したことにより、約50m南（橋の南側）に移設され、寺谷・磐田用水記念碑公園として整備されました。この公園には用水に関する「碑」が並んでおります。



記念碑公園の全景



③「留魂碑」

…留は留の旧字体で2つの口は寺谷と社山の取入口という意味を込めている。山内克巳氏が揮毫

※①②は昭和19年の磐田用水の通水を祝って残された。

③は昭和58年の磐田用水土地改良区連合解散時に残された。



①

「水流而不競」

…競わすとは寺谷と社山を表す。(寺谷用水と社山用水が平等に水を流しましょうという意味)鈴木正一氏揮毫



②

「水滾々七千町歩豊の秋」

…磐南一帯に水がきたという意味。江塚勝馬氏の句

水源涵養林に関するこ

当土地改良区は平野重定公が水路を開削した年から数えて350周年記念事業として昭和31年から現在まで浜松市天竜区水窪奥領家において水源涵養林の育成に努めています。この永年の取り組みが評価され平成15年には国土交通大臣から、令和4年には内閣総理大臣から表彰状をいただきました。

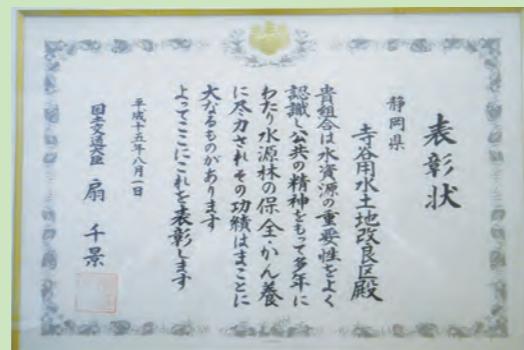
内閣総理大臣表彰



後列右から6人目が池田理事長



▲「表彰状」 2022年4月16日受賞 みどりの式典にて



▲「表彰状」 2003年8月1日受賞

役職員による視察の様子



感謝米に関するこ

水の恵みに感謝～感謝米を水源地に～

平成24年度から、「天竜川の恩恵を受けている者として、上流部の水源を管理している方々に感謝し新米を贈りましょう」という趣旨のもと磐田用水東部土地改良区と合同で始めた活動です。

組合員の皆様からいただいた新米は長野県駒ヶ根市・喬木村、森林組合等に「感謝米」として贈り、学校給食などに活用されています。

今後も本活動を続けてまいりますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



▲組合員から感謝米を受取る様子

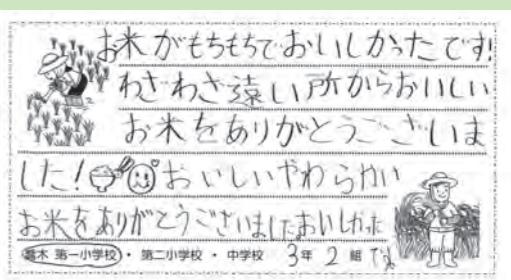


▲感謝米贈呈式の様子

左側：浜松市天竜森林組合長
中央：寺谷用水土地改良区理事長
右側：磐田用水東部土地改良区理事長



▲小学校の給食で使われている様子



▲喬木第一小学校お礼の手紙

水源地ってなに？



天竜川上流部の山林を指します。

良好に管理された山林の土は、スponジのような役割を果たしています。降った雨は森林というフィルターを通してゆっくりと天竜川に注がれています。川の水の量を一定に保つだけでなく、洪水や渇水を防ぐ効果もあるそうです。

下流で水を利用している私たちは、森林を守っている方々に対する感謝する気持ちを忘れてはならないと思います。